

# 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970100281		
法人名	社会福祉法人晃宝会		
事業所名	グループホームあじさい園		
所在地	奈良市茗荷町805-1		
自己評価作成日	平成22年12月14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kohyo-nara.jp/kai_gosip/Top.do">http://www.kohyo-nara.jp/kai_gosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット		
所在地	奈良市登大路町36番地 大和ビル3階		
訪問調査日	平成23年1月21日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームあじさい園周辺は、茶畑等の緑や素晴らしい山々に囲まれ、緑豊かな自然環境です。職員はご利用者様にとっての安心、安全、健やかさ、なじみの暮らしの継続を常に念頭に置き、いつでもどこでも尊厳ある生き生きとした生活を営めるよう支援いたしております。また、ご利用者様の「その人らしい生活」の具体的な姿を考え、自立支援に向けての目標を設定し、実現に向けて一人ひとりの職員が努力いたしております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

この事業所は、平屋の完全バリアフリーの建物で、居間や廊下、居室も広くゆったりとつくられている。また、高台にあるので居間からは四季の変化を楽しむことができる。地域のお祭りや運動会に出かけたり、逆に保育園児や幼稚園児の訪問があるなど、地域との交流も積極的に行っている。家族会があり、焼肉会などを行って家族同士の交流もある。同じ敷地内にあるデイサービスや特別養護老人ホームとうまく連携し、利用者個々のニーズに合わせたきめ細やかで質の高い介護を行っており、利用者や家族の評価も非常に良い。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

※セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営方針に「私達は、ご本人、ご家族、地域の皆様に支えられていることに感謝し、連携を大切にいたします。」と掲げ、毎朝の朝礼時に復唱し、事業所理念の周知徹底に努めている。	法人理念は、重要事項説明書に分かりやすく明記されており、玄関など目につきやすい場所に掲示されている。ホーム独自の今年度の目標「まごころを伝える」をたて、全職員で実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元地域の行事には積極的に参加し、また地元幼稚園や保育園との交流会も定期的に行っている。家族会行事のバーベキューに地元地域の方にも参加していただくなど相互の交流を深めている。加えて地元自治会が主催する公設市場では、地産のものを入居者の趣向に応じて買物が出るよう配慮し、おやつ作りに活用もしている。散歩の際、地域の方々と一緒にコミュニケーションをとるよう心がけている。	昨年は「平城遷都1300年祭」で、すぐ近くにある地域交流会館では「ふるさと発見行事」が多く開催され、ホームからも参加した。10月には天皇・皇后両陛下が「田原の光仁天皇陵」を訪問され、自治会と一緒に沿道でお出迎えした。保育園児・ハーモニカなどボランティアの訪問も多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元自治会からの依頼により、職員はグループホームの事業紹介や認知症ケアについて講演を行っている。また個々の認知症に関する介護相談について随時応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	東部山間の地域の状況、特性、また、あじさい園に期待するところをヒアリングし、昔ながらの営みや、助言をいただき、サービス向上に反映出来るように努めている。事業所からは介護、医療、保健に関する最新の情報を提供しよう心がけている。地域包括支援センターとの関わりを密接にし、情報交換を行い入居者の質の高い生活につながるよう配慮している。	運営推進会議は奇数月の第2火曜日に開催している。連合会長や万年青年会長など十数名の参加があり、ホーム便りをお渡しして近況報告したり、地域が抱える問題や地域との連携などを話し合った。会議は一致団結の和やかな雰囲気で行われた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターを通して、地域の情報に耳を傾けサービスの質の向上に努めている。また、事故報告を速やかに行い、場合によっては管理者と市町村とで連絡を取り合うこともある。ケアマネジャーが直接市町村へ相談に行くこともある。推進会議の案内、報告を行い、推進会議の出席依頼も密に行う。	市の審査会に月2回出席している。活発に行われている運営推進会議の報告をしたり、密に連絡を取るよう心がけている。市の担当者が事業所を回ってきて、事故防止や防災についても情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の人権を尊重すると共に、日常生活のケアの充実を図り、拘束をしない介護を目指している。具体的に身体拘束等行動制限についての取扱要綱を定め、実践の徹底を図っている。定期的に研修会を行い、個別のプランにおいても十分考慮して進めている。	身体拘束は行わず怪我などのリスクについて入居時に本人や家族に説明している。身体的な拘束はもちろん、言葉による拘束をしないように具体的な事例を挙げながら研修し、よりよいケアに努めている。また、介護職が一人でストレスを抱え込まないように話を聴くようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年次研修計画に基づき虐待について理解を深めると共に、職員一人ひとりが日常業務において不適切な言動、行動はないかを振り返り、より良いケアの提供に努めている。また介護上の悩みを一人でかかえないよう配慮している。ご利用者への感謝の気持ちや尊敬の念を持ち続けるよう、日頃から声掛けしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員定期研修の折に法人で定めた権利擁護ガイドラインの周知を図っている。また成年後見人制度等については外部の研修に積極的に参加している。法人内において情報の共有を心がけている。入居者が制度の利用を検討する場合には、支援する体制がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、介護保険法改正によるサービス料改訂時にはその都度、重要事項説明書等で書面により説明し、ご家族、ご本人から署名捺印をいただいている。また、不明な点があれば契約後、解約後であってもご意見を伺い、その都度十分な説明に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見承り箱を設け、匿名においても意見が集約出来る体制を整えている。またご本人、ご家族からのご要望を寮母会議等で検討し、業務、個別援助に活かすよう努めている。意見をいただけることはありがたいことであることを職員の共通認識としている。	利用者の家族に毎月担当者が手紙を書き、意思疎通を図っている。昨年11月「家族の会」が発足し、個別では言い難いことを提案してもらったり、意見交換や交流の場としている。行事の時には、管理職らも家族に交わって話を聞くようしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	寮母会議において毎回業務に関する提案を聞く機会を設け、様々な角度から介護サービスを見つめ、より良いケアの提供に努めている。又、職員個々と面接を行い、沢山の意見や情報収集に努めている。	月1回の寮母会議で管理者は「議論しよう、本音で話そう」と全職員に声かけており、話しやすい雰囲気づくりをしている。月2回の法人会議では研修に出た職員の発表の場も設けている。また年1回管理職は職員と個別面談しており、個々の悩みにも応えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員から意見が集約出来る体制を整え、文書で掲示し、代表者、管理者で対応し、その際も社会保険労務士や顧問弁護士の意見も参考にしている。また随時個別に意見の集約に努め、働きやすい環境整備に配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員それぞれの能力に応じ、より一層のスキルアップを図れるよう外部研修に参加している。また寮母会議、全体会議において、ターミナルケア等業務に関わるテーマについて定期的な職場内研修を行っている。他職種、他職員の復命発表を聞く機会を月2回設け、各事業所へ伝達している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症ケア等について他のグループホームとの交流を行ったり、お互いに相談し合う体制をとって、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接時にご本人から意見の集約、具体的な要望の確認に努めている。また入居前にはご本人に施設見学していただき、同意、納得を得られるよう配慮し、安心してご入居いただき、信頼関係をきずけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接時に、ご家族から意見の集約、具体的な要望の確認に努めている。また、入居前にご家族に施設見学をしていただいている。サービス内容をご理解、納得いただき、入居に際しての不安を軽減し、初期の信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前のご意向を考慮し、ご希望と身体状況に応じたサービス計画を立て、概ね入所3か月間はご本人、ご家族の意向確認の徹底に努め、ニーズの確認に留意している。身体状況の変化も起こりやすいことから、主治医との連携も密に行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は常に入居者と共にする時間を多く持てるよう留意し、食事を一緒に摂る等、家庭的な雰囲気作りに努めている。また共同生活でのコミュニケーションにおいては傾聴し、信頼関係の構築に配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	サービス計画立案以外にも、家族会の清掃の日にはご本人とご家族と一緒に掃除をする。食事会の時には一緒に食事をしていただくなどご家族が参加出来る行事を設け、一緒にご本人への支援が出来るよう配慮している。毎月の定期連絡の際に直近の状況を報告し、可能な範囲でご家族からの支援をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	バックグラウンドアセスメントシートを用いて生活歴の把握に努め、その内容を職員が把握、共有し、日常のサービスに活かすように努めている。慣れ親しんだ地元の行事に積極的に参加し、馴染みの人との交流を図る。	地域のお祭や運動会、公民館で行われる行事などに積極的に参加し、地域の人々と交流している。車による買い物ツアーや近くの農産物販売所などに出かけている。近くの診療所の待合室で地域の方と、またデイサービスやケアハウスの馴染みの方と交流をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	馴染みの関係が出来ているので、出来るだけ関係がうまくいように席などを配慮し、職員がさり気なく誘導を行い、話の輪に入るよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	エンジェルケア、葬祭時には状況に応じて職員が丁寧に対応している。また契約が終了したご家族の方が来園いただいた際にはご相談に応じる等、信頼関係の継続、グリーフケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	昔の生活を思い出しながらの会話に努め、居室には慣れ親しんだ家具や物品を居室に置くなど、入所までの生活の継続に努めている。日常一人ひとりの希望を直接伺うだけでなく、日々の会話の中から意向を汲み取り、把握出来るようにしている。意思表示が難しい方には、ご家族との連絡相談を一層密に図り、ご本人の希望に添った支援が出来るようにしている。	独自のバックグラウンドシートを作成し、家族や本人に生活歴や生き甲斐、嗜好などを聴く中で、思いの把握に努めている。日々の生活の中でも、本人の思いや希望を積極的に聴くように心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族に直接希望を伺い、また日頃の会話の中から馴染みの暮らし方、好き嫌い、考え方等の把握に努めている。また担当ケアマネジャーよりご利用サービス状況なども伺い、支援に生かすようにしている。居室は、ご本人の意見やご家族の話から、慣れ親しんだ部屋に近づくように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カーデックスや職員の申し送り等で現状が把握出来るよう努めている。またケアマネジャーと相談して定期的にあセスメントを行い、問題点を把握してサービス計画書を作成し、日々の暮らしに反映出来るように支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の意向も聞き、管理者、ケアマネジャー、ケアワーカー等がご本人の日々の生活の中で、ケアのあり方について意見やアイデアを出し合い、ケアに反映させている。介護計画作成にあたっては、特にご本人のしたいこと、出来ることを把握し、計画に反映するようにしている。	家族や本人の思いを受けて、職員で意見を出し合い、ケアプランを作成している。3ヶ月に1回のモニタリングをまとめ、6ヶ月に1回サービス担当者会議(家族・本人・主任・ケアマネ参加)を実施し、プランの見直しをしている。職員休憩室のホワイトボードに個人のケアプランが書かれており、毎日確認できるようになっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カーデックスや寮母連絡帳に記入し、情報を職員全員で共有しながら実践に活かしている。日中、夜間の生活の様子や気づきをカーデックスや職員連絡帳に記入し、排泄、食事量、体重などの記録と共に、日常生活支援や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体状況の変化に応じ併設の特養への移行、老健への入所、在宅復帰等の支援に努めている。またご本人様のニーズ、馴染みの人との交流に重点を置き、併設の通所介護サービス利用者との面会を設ける等、生活の質の向上につながる柔軟な支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期の運営推進会議を通じ、入居者が地域の行事、運動会等に参加出来るよう自治会、民生委員、老人会等に協力を依頼、地域交流のための便宜を図っていただいている。また学校や保育園、幼稚園と情報交換し、交流を継続している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による月一回の定期健診と、必要に応じての指示や往診依頼で密な連携をとっている。専門医の受診時には、かかりつけ医の紹介状も依頼し、通院の支援も行っている。	内科のかかりつけ医が、月1回定期健診している。また、歯科衛生士が月2回、口腔ケアを実施している。かかりつけ医の専門外の病気については、本人や家族の希望にそって通院してもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の特養の看護師に毎日、入居者の状態を報告し、場合によっては観察を行い、指示を仰ぐ等支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携病院の地域医療相談室を通じてその都度、病院にご本人の支援内容等の情報を提供し、連絡を密に回り連携を大切にしている。入居者入院時には、職員が頻りに面会に行き、なじみの顔に会うことで、安心していただけるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族には入居時等前もって急変時、終末期の対応について説明し、書面で同意を得ている。ご本人にも確認の出来る限り随時意向を確認している。また実際の急変、終末期でも再度意向を確認し、ニーズに沿った支援を心がけている。運営推進会議を通じ地域の皆様へも事業所の取り組みを伝え、協力をお願いしている。	終末期の対応については入居時に説明し希望を聞いているが、本人や家族の思いも変化するので、随時確認しながら意向に沿った支援を心掛けている。また、終末期のケアについて職員研修を行い、体制づくりを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当のマニュアル作成や急変、事故発生時の研修、訓練を行っている。緊急連絡網を作成し、緊急時に備えている。また、AEDも設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時緊急連絡網等も作成し、常備も備えている。地域の消防団との協力体制がある。避難訓練は夜間想定も行い、緊急に備えている。	年2回避難訓練を行っている。ホール、廊下、事務所に消火器を設置し、火災通報装置もある。運営推進会議で消防団長・警察から「災害時はまず人を呼ぶこと」などアドバイスを受けている。近々スプリンクラーも設置予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員はご利用者への尊敬の気持ちを常に持ち続け、入居者一人ひとりの生活のリズムを大切にしている。またその人らしくお過ごしいただく上でプライバシーを守るよう、全職員に徹底している。	利用者とは日々の生活の中で、仕事としてではなく人生の先輩として、礼儀正しく接するようになっている。また、職員同士も尊敬の心を持って心掛けている。居室ドアの小窓は、本人の希望に添って目隠しをしたり、シールを貼ってプライバシー保護に配慮している。居室に鍵をかけておられる方もいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣類の選択や個々の外出、行事参加等、ご本人に選択していただけるよう条件を整え、ご本人の自己決定を支援している。自ら希望を言えない方には、ご家族の思いや希望を伺ったり、ご本人の表情や態度からのメッセージを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自然豊かな環境のもとゆったりと過ごしていただくためにも、ドライブ、買い物等希望があった時は、極力対応出来るように努めている。起床時間等もご本人のペースで過ごせるよう努めている。ご本人の体調や気持ちを考慮しながら日々穏やかに、その人らしく生活出来るように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族が馴染みの美容、理容店に連れて行って下さる方もおられる。施設内で理美容時でも、髪型等ご本人、ご家族の希望を聞き、パーマや毛染め、顔そりの要望にも応えている。お化粧品、服装等、ご本人、ご家族に好みを確認したり、個々の意思を尊重した援助心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設内の花壇、畑を活用し、一緒に作った旬のものを食べれるように工夫している。盛り付け、片付け等入居者の出来ること、好きなことを職員と共にやっている。バイキング、外食、お鍋、お菓子作り等メニューは出来るだけバラエティー豊富に考えている。体調や体力を考え、疲れないよう配慮している。	基本的に食事は併設の特養で調理されるが、畑で作ったものや農産物直売所で買ってきたものを調理し一品加えることもある。また、バイキング料理・一人鍋・イベント食や誕生日ケーキなど、ホーム独自のメニューも工夫している。栄養士が直接利用者の希望を聞いている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量を毎回記入し、水分摂取量も記入し支援している。またその記録をケアプランへの反映に心掛けている。食事の進まない方には、同法人の栄養士にも相談し食べやすいもの、食べたいものを提供し、少しでも食欲が出るように工夫している。療養食などにも対応出来るよう研修を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、夜間は、義歯を消毒のため預かっている。月に2～3回歯科衛生士が訪れ、専門的な口腔ケア(清潔保持、口腔リハビリテーション)と口腔内チェックをしている。職員は衛生士より口腔ケアの指導を受け、レベルの高い口腔ケアに取り組んでいる。また嘱託歯科医による検診、処置も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人おひとりの排泄リズムを把握し、状況に応じトイレ誘導を行っている。体調不良時等は除きおむつの使用は控え、プライバシーを守り尊敬の気持ちを常に持ちつつ排泄の自立支援を徹底している。	排泄表を記入して個々の排泄パターンを把握し、適切なトイレ誘導を行って、なるべくオムツを使わない自立支援を心がけている。トイレ誘導の声掛けも、自尊心を傷つけないように配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方が居たら、随時会議で話し合いをし、水分摂取量に気をつけたり、散歩や運動する機会を増やしている。水分摂取量は毎日記録している。医師や看護師への相談報告も必ず行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	定期的には決まっているが、毎日入浴の準備し希望によりいつでも入浴出来るようにしている。入浴を断られる方でも声掛けし、入浴をすすめ、清潔保持を図りやすい環境作りをしている。またご希望に合わせて四季折々に入浴剤の使用やゆず等の季節風呂を取り入れている。入浴が出来ない時は清拭など代替を必ず行っている。	毎日準備し、本人の希望に合わせて週2回以上入れるようにしている。浴槽には上下する電動イスが設置され、安全に配慮している。入浴拒否の方もおられるが、個々に合わせた声掛けをし、楽しく入っていただく工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり自分のペースで就寝していただけるよう日中散歩をする等、生活にリズムを作るよう支援している。なかなか眠れない方は寮母室で職員と話したりし、対応している。食後昼寝をしたい方には居室へ誘導し横になっていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師より処方された薬の内容を職員は把握し、同時に法人内の看護師にも報告している。入居者の様子観察は常に意識し、「いつもと違う」を常に気につけて支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	バックグラウンドアセスメントシート内容(生活歴、過去の趣味嗜好)を職員が把握し、常に利用者の表情を確認し、ご本人の出来ること、好きなことを、職員と共に楽しんでいただけるよう留意している。また生活の中での役割を大切に、洗物や掃除は職員と一緒にやるように努めている。より一層張りのある生活につながるよう、季節感を大切にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	気分や体調に応じ、またご本人の意思を尊重し、外出、散歩等している。天気が良ければ基本的に毎日外に散歩するよう支援している。外出時には生活歴を反映し、過去の生活を回想出来るように配慮し、地域の伝統行事予定等を考慮し、コミュニケーションツールとして活用して、楽しみや期待へつなげている。	午前・午後と体操して足腰を鍛え、天気の良い日は毎日全員散歩に出かけるようにしている。同敷地内にある併設の介護施設に出かけたり、近くの農産物販売所に買い物に出かけることもある。また、車による買い物や外食、花見などで出かける。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人がお金を持っていないと不安になる方には、ご家族の了承も得て、所持していただいている。そのお金で買い物も行っている。買い物に行った時には、ご本人にお金を払っていただくように支援し、生活習慣の継続に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に応じ、電話をしたり、手紙を書いたり出来るように支援している。意思表示が難しい場合には職員が日常生活の一部を撮影し、定期連絡に写真を添える等、ご本人とご家族との意思の疎通に配慮している。ご本人からのコミュニケーションが無理な方には職員からご家族へ都度、ご様子を連絡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースの天窓には、ブラインドを使用し、光の調節に留意している。またホールには四季の草花を飾る等、日常生活で季節感を感じられるよう配慮している。職員は声の大きさ、言葉の優しさ等にも気を配るよう努力し、快適な生活を支援出来るように努めている。	事業所は少し高台にあるので、居間からは四季の風景を楽しむことができる。天窓がある居間は明るく広々としてテーブルやソファが置かれており、それぞれ自由にのびのび過ごすことができる。壁には行事の写真や好きな歌詞が貼られていたり、時には有線放送の音楽を流したり、楽しく工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	職員がその方の地域柄等を理解するよう努め、随時会話話題の提供、入居者同士の談笑のきっかけ作りに配慮している。共有のホールでも居場所が作れ、あらゆる場面で一人ひとりがリラックス出来、安心してお過ごしいただける雰囲気作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはご本人のなじみの物を持ってきてもらい、居室に飾る等、今までと変わらないような落ち着いた安心出来る空間作りに努めている。特に茶碗、箸等の食器類は入居前のものを使用出来るようご家族に依頼し、生活習慣の継続に努めている。	10畳ほどの居室にはクローゼットと洗面台があり、すっきり広々としている。また、使い慣れたベッドや椅子、テレビや鏡台、仏壇や家族の写真など思い思いに置かれ、居心地よく過ごすことができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員は居室等の温度調節にしっかりと気を配り、またご本人の希望を尊重の上衣服の調節を図る等、出来る限り自然なケアに努めている。廊下、トイレ、浴室には手すりを設置し、安全にかつ自立した生活が出来るように配慮している。施設内の表示は分かりやすさ、見やすさを心がけ、寄り添い、そっと見守り、ご本人に添った自立支援を心がけている。		